



故台北帝國大學教授山本由松外二名位階追
陞の件


右謹んで裁可を仰ぐ

昭和二十三年六月二十五日

内閣總理大臣 芦田 均



總人外位第二三號
 案起
 昭和三十三年六月
 日
 閣議決定昭和三十三年六月二十五日
 上奏昭和三十三年六月五日
 公布昭和三十三年六月五日
 施行昭和三十三年六月二十五日

內閣總理大臣


內閣官房長官

內閣事務官

內閣官房次長

西尾國務大臣 西	菅米地國務大臣 生	北村國務大臣	永江國務大臣 生
一松國務大臣 忠	鈴木國務大臣 義	曾田國務大臣 忠	野津國務大臣 忠
水谷國務大臣 水	栗栖國務大臣	加藤國務大臣 加	野田國務大臣 忠
藤野國務大臣 忠	竹田國務大臣 忠	富吉國務大臣 忠	

故台北帝國大學教授正五位山本由松外二名は功績顯著な者であつ

内閣

たが孰れも死亡したので特旨を以て左のとおり位階追陞の件を上奏
することに致したい。

故台北帝國大學教授正五位 山 本 由 松

故文部教官 正五位 池 田 嘉 平

特旨を以て位一級追陞せられる 故判事 正五位 堀 内 信 之 助

正五位 山 本 由 松

從四位に敘する

昭和二十二年六月二十八日付

正五位 池 田 嘉 平

從四位に敘する

六月一日付

正五位 堀 内 信 之 助

從四位に敘する

六月十日付

内

閣

故台北帝國大學教授正五位 山 本 由 松

右者大正十二年三月東京帝國大學理學部副手を囑託され次で昭和三年五月十八日台北帝國大學助教に任ぜられて以來在官滿十九年に亘り終始同大學に在つて植物學の教授を担任し好く學生の指導薰育にあたつて功績が尠くなかつたが昭和二十年八月終戦と共に中華民國台灣省政府に依つて留用され引續き同大學の教職に止まつていた処昭和二十二年六月二十八日台北において死亡したことが本月七日遺族よりの届出に依つて判明した次第であるから特に位階追陞の恩典に浴せしめられたく請議する

昭和二十三年六月 日

外務大臣 芦 田

内閣総理大臣 芦 田 均 殿



外 務 省

昭和三十二年六月十八日
 任新潟高等學校教授
 以來在職滿十年以上
 故文部教官正彦池田 嘉平

從四位に 昇
 三十二年六月一日
 昭和三年六月十二日
 任新潟高等學校教授
 以來在職滿十年以上
 故文部教官正彦池田 嘉平

右の者は昭和三年六月十二日新潟高等學校教授に任官以來在官十九年十一月餘此の間職務に精勵し功績顯著な者であつたが昭和二十三年六月一日死亡したについては此の際特に死亡の日に遡つて位階進陞の榮に浴させられるよう
 右請議する

昭和二十三年 六月二十二日

文部大臣 森 戸 辰 男



文部省

内閣總理大臣 芦田 均 殿

大正十四年五月十八日
最高裁判所人恩第二三七號

故判事正五位 堀 内 信之助

右の者、大正十四年五月十八日司法官試補を拜命、昭和二年三月二十八日檢事に任官次で同三年一月十日判事に轉官、以來在職二十一年餘、その間同十八年十一月一日正五位に陞叙せられ、同二十年四月十四日高等官二等に叙せられ、在職中の功績顯著のものでありましたが、同二十三年六月十日死亡しましたから、同日附を以て特に位階追陞の恩典に浴せしめられたく請議する。

昭和二十三年六月二十三日

最高裁判所長官 三 淵 忠



内閣總理大臣 芦田 均 殿

第四百三十三号
 明治二十三年六月十日
 以来并増十号以上
 明治二十三年三月二十八日
 第四百五十五号

本籍	生年月日	履歴	事項	發令廳
福井縣	明治二十六年二月十五日	福井縣師範學校本科第一部卒業	山本由松	福井縣
福井縣	明治二十六年二月十五日	福井縣今立郡鯖江町南小路拾五番地 小学校訓導 拜命 月俸十七円給與	山本由松	福井縣
福井縣	明治二十六年二月十五日	福井縣今立郡鯖江町借陰尋常高等 小学校令施行規則第八十二條第三号ニ 依リ休職ヲ命ス	山本由松	福井縣
廣島縣	明治二十六年二月十五日	廣島縣高等師範學校理科第三部入学 右校卒業	山本由松	廣島縣
鹿兒島縣	明治二十六年二月十五日	鹿兒島縣立第一師範學校教諭兼訓導 拜命 六級俸給與	山本由松	鹿兒島縣
公立學校	明治二十六年二月十五日	公立學校職員分限令第八條第一項及四 号ニ依リ休職ヲ命ス	山本由松	鹿兒島縣

臺灣總督府總務廳庶務所

年月日	履歷	事項	發令廳
大正九、五、五	廣島高等師範學校理科第三部研究科	入学	廣島高等師範學校
〃 九、九、〇	右退学		
〃 九、九、二	東京帝國大學理学部入学		臺灣總督府
〃 一〇、五、三	植物調査事務ヲ囑託ス		中央研究所
〃 一三、三、三	東京帝國大學理学部卒業		臺灣總督府
〃 〃 〃 〃	理学部副手ヲ囑託ス	月手当十五円ヲ給ス	東京帝國大學
〃 一三、三、三	〃	月手当六十円ヲ給ス	臺灣總督府
〃 一四、六、三	〃	月手当六十五円ヲ給ス	中央研究所
〃 一五、三、三	〃	月手当七十五円ヲ給ス	臺灣總督府
昭和二、九、三	〃	月手当八十円ヲ給ス	臺灣總督府
〃 三、五、八	任台北帝國大學助教		臺灣總督府
〃 〃 〃 〃	兼任台北帝國大學附屬農林專門部教授		臺灣總督府
〃 〃 〃 〃	敘高等官六等		臺灣總督府
〃 三、八、三	御用濟二付囑託ヲ解ク		臺灣總督府
〃 三、二、六	大禮記念章授與		賞勳局
〃 五、九、三	七級俸下賜		臺灣總督府
〃 五、三、二	陞敘高等官五等(本官兼官)		臺灣總督府
〃 六、二、六	敘從六位		宮内省
〃 七、一、九	植物学ヲ一講座分担ヲ命ス		臺灣總督府
〃 〃 〃 〃	講座職務俸二百五十円下賜		臺灣總督府
〃 〃 〃 〃	陞敘高等官四等		臺灣總督府
〃 〃 〃 〃	六級俸下賜		臺灣總督府

臺灣總督府機務整理事務所

年月日	履下歴	事	項	發令官廳
昭和八二五	敘從六位			宮内省
" 八二五	台湾總督府在外研究員ヲ命ス			台湾總督府
" 九二八	植物学ヲ一講座分担ヲ免ス			"
" 九二七	理学博士ノ学位ヲ授ク			東京帝國大学
" 九、九、七	帰朝ヲ命ス			台湾總督府
" 二、六、五	植物学ヲ一講座分担ヲ命ス			台湾總督府
" 三、三、三	講座職務俸二百五十円下賜			内閣
" 三、三、三	陞敘高等官三等			台湾總督府
" 三、五、一	敘從五位			宮内省
" 西、六、七	敘勳六等授瑞宝章			賞勳局
" 一五、二、五	植物学ヲ一講座分担ヲ免ス			台湾總督府
" 一五、三、三	四級俸下賜			"
" 一七、五、一六	兼官			内閣
" 一八、三、三一	三級俸下賜			台湾總督府
" 一八、四、一	勅令ヲ元八号ニ依リ帝國大学学部南スル件中改正			
" 一八、四、一	理学部勤務ヲ命ス			
" 一八、四、一	職務俸三百六十円下賜			台湾總督府
" 一八、四、一	敘勳五等授瑞寶章			賞勳局
" 二〇、二、一五	國立台湾大学理学院ニ留用			
" 三三、六、二八	台北帝國大学教授に任命する			
"	一級に敘する			内閣
"	二十五号俸を給する			台湾總督府
"				務整理事務所
" 三三、六、二八	卒去(善虫病)			

臺灣總督府後務整理事務所

履 歴 月 報

廣 島 文 理 科 大 学

同	一六	一九三〇	六級俸下賜(二、四二〇)	文部省
同	一八	六一五	敘正五位(擬賞一〇五五〇)	宮内省
同	一八	六二九	叙勳五等授瑞寶章	實業勳章局
同	三〇	一三三五	五級俸下賜(二、七七〇)	文部省
同	三二	一四一	官制改正(任文部教官 叙二級 補廣島高等師範學校)	内務省
同	二二	一三三	教授(俸給如故)(二、一五〇)	同
同	三二	七三	官吏俸給令改正(八二〇)	文部省
同	二二	三三	三十二號俸下賜(一、七〇〇)等官四等	文部省
同	二二	七一五	昭和三十二年十二月秘三五〇號ニ依リ是正	宮内省
同	一〇	五一	二十四號俸下賜(一、四〇〇)	同
同	二六	一八三	昭和二十一年勅令第二百六十三號により	中國地區官
同	二六	二二五	適格と判定される(第五二一號)	學校集團
同	二七	一九三	昭和二十一年十月十日官制改正により特別昇給	教員適格
同	二七	二五〇	二十五号俸と給する(一五〇)	審査委員長
同	二七	二六〇	二十六號俸と給する(一六〇)	同

廣島高等師範學校教授に補する

死七

同二三六一一級に陞叙する

履歴書用紙

最高裁所

年	月	日	事	項	應名
昭和八	九	三〇	民事局兼大臣官 會計課勤務ヲ命ス	司法省	
九	八	一	民事局勤務ヲ命ス	司法省	
同	同	三一	四級俸下賜	同	
同	同	三一	改叙高等官四等	内閣	
同	九	一五	叙正六位	官内省	
同	一〇	二六	三級俸下賜	司法省	
同	一二	二六	任司法書記官兼司法省事務官	内閣	
同	一二	六	五級俸下賜	内閣	
昭和一二	七	一四	昭和十二年勅令第三百十八号ニヨリ兼官ノ司法省事務官ハ廢官トナル		
同	九	一	民事局第四課長ヲ命ス	司法省	
同	同	同	民事局第一課長横田正俊不在中代理ヲ命ス	同	
昭和一二	一〇	一五	調査部兼務ヲ命ス	司法省	
同	一一	一	調査部兼務ヲ命ス	同	
同	一三	一四	民事局第三課長ヲ命ス	同	
同	七	六	叙勳六等授勳賞章	賞勳局	
同	同	同	四級俸下賜	司法省	
同	九	三〇	改叙高等官三等	内閣	
同	一〇	一五	叙從五位	官内省	
同	三	三〇	民事局第二課長ヲ命ス	司法省	
同	四	一	司法省資金前渡官吏ヲ命ス	司法省	
同	四	六	兼任外務書記官	内閣	
同	同	同	叙高等官三等	同	
同	同	同	條約局第二課勤務ヲ命ス	外務省	
同	同	二九	叙勳五等授勳賞章(支那事變の功)	外務省	

履歷書用紙

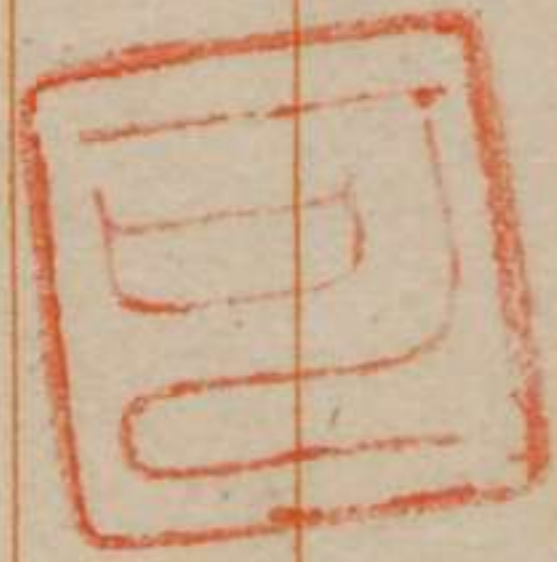
最高裁判所

年	月	日	事項	應名
昭和一九	三	三	任判事	内閣
同	二	四	任判事	同
同	六	一	補前橋地方裁判所長	同
同	三	〇	二級俸下賜	同
同	六	三	敍勳四等授瑞寶章	賞勳局
同	二	〇	補東京民事地方裁判所部長	司法省
同	二	〇	二級俸下賜	同
昭和二一	四	一	勅令第一九三號第一九三號ニ依リ勅任	同
同	同	同	勅令第一九二號司法省人補第一、二七五號訓令	同
同	同	同	ニ依リ賜十一號俸	同
同	九	一	勅令第四百五拾五號俸給令改正二十五號俸(七月ヨリ適用)	同
昭和一九	三	三	任司法書記官	内閣
同	一	一	敍正五位	同
同	七	八	敍勳五等授瑞寶章 (昭和十五年五月二十三日附勳内發第八九八號ニ依リ發給之無キモノトナレリ)	同
同	六	三	二級俸下賜	同
同	一	〇	補東京民事地方裁判所部長	同
同	一	〇	三級俸下賜	同
同	同	同	補東京控訴院判事	司法省
同	五	五	敍高等官三等	同
同	一	六	任判事	内閣
同	一	六	司法省資金前渡官吏ヲ免ス	同
同	一	二	民事局第一課長ヲ命ス	同
昭和一五	六	二	三級俸下賜	司法省

履歷書用紙

最高裁判所

年	號	月	日	事	項	應	名
昭和二三	五	三		昭和二十二年法律第六〇條により判事 東京地方裁判所判事 同年法律第六五條により報酬額現俸給の通り			
同	六	三〇		二十六号俸を給する			最高裁判所
同	一一	一〇		判事に任命する			内閣
同	同	同		浦和地方裁判所判事に補する			最高裁判所
同	同	同		一号報酬を給する			
同	同	同		浦和地方裁判所所長を命ずる			
同	同	同		兼ねて浦和家事審判所勤務を命ずる			
同	同	同		特号報酬を給する			最高裁判所
同	同	同		死亡			同上



故盛岡農林専門学校教授兼次忠藏位階追陞の件
右謹んで裁可を仰ぐ

昭和二十三年六月二十五日

内閣総理大臣 芦田 均



二〇

内

閣